2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

作業療法学科
2年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科　2025年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活 社会の理解	心理学	●
	法学	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	外国語（英語）	
	コミュニケーション論	●
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学Ⅰ	●
	解剖学Ⅱ	●
	人体の構造と機能	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
	生理学実習	●
	運動学Ⅰ	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学概論	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	看護・介護概論	
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法概論	●
	作業療法演習Ⅰ	
	作業療法演習Ⅱ	
地域作業療法学	生活環境論	●
作業療法管理学	医療倫理・職業倫理	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活　社会の理解	医療英会話	
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学実習	●
	運動学Ⅱ	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
基礎作業療法学	応用作業療法学	●
	作業療法演習Ⅲ	
	作業療法研究法Ⅰ	●
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	●
	作業療法評価学Ⅱ	●
	作業療法評価学Ⅲ	●
作業療法治療学	日常生活技術論	●
地域作業療法学	レクリエーション（選択必修）	
	障害者スポーツ（選択必修）	
臨床実習	見学実習	

3年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	作業療法研究法Ⅱ	●
作業療法評価学	作業療法評価演習	
作業療法治療学	日常生活技術演習	●
	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	高次脳機能治療学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	内部障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学	●
	末梢神経系作業療法学	●
	臨床作業療法学	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	

4年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	総合演習Ⅰ	●
	総合演習Ⅱ	●
作業療法管理学	作業療法管理学	●
臨床実習	在宅リハビリテーション実習	
	臨床実習Ⅱ	

１．基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療英会話	Robert Holt	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

The purpose of this course is to teach students English for Medicine. This will challenge students to learn new vocabulary, and to use reading and listening skills.

【学習目標(到達目標)】

Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will be taught Medical English songs.

【受講して得られる力】

コミュンケーションスキル
知識・理解
論理的思考力
統合的学習体験

【履修上の注意】 辞書使用

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	Polio And Vaccination	Reading Comprehension – Polio. Common Vocabulary.	個人
2	A Doctor's Prescription	Reading Comprehension – Basic Prescription Understanding. Common Vocabulary.	個人
3	Barometric Pressure And Migraines	Reading Comprehension – Headaches. Common Vocabulary.	個人
4	Internal Medical Exam	Reading Comprehension – Anti-Diarrheal / Anti-Gas Medicine. Common Vocabulary.	個人
5	Colon Polyps	Reading Comprehension – Stomach and Intestinal Health. Common Vocabulary.	個人
6	Respiratory Symptoms	Reading Comprehension – Breathing Issues and SARS. Common Vocabulary.	個人
7	Diabetes	Reading Comprehension – Diabetes Nowadays. Common Vocabulary.	個人
8	Coronary Arterial Problems	Reading Comprehension – Heart issues. Common Vocabulary.	個人
9	A Single Doctor's Office Visit and Health Insurance	Reading Comprehension – US Health Care. Common Vocabulary.	個人
10	Allergic Reactions	Reading Comprehension – Hay Fever. Common Vocabulary.	個人
11	COVID-19	Reading Comprehension – COVID-19 response. Common Vocabulary.	個人
12	Heartburn And Endoscopy	Reading Comprehension – Heartburn and food. Common Vocabulary.	個人
13	Menopause	Reading Comprehension – Menopause, ladies health. Common Vocabulary.	個人
14	Carpal Tunnel Syndrome	Reading Comprehension – CTS, and RSI. Common Vocabulary.	個人
15	Sports Injuries	Reading Comprehension – Sports injuries, breaks and sprains. Common Vocabulary.	個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	English For Medicine (Revised Edition) – T. Nishihara, M. Nishihara and A Martin.
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎回授業開始時の小テスト準備のための学習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

2. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学実習	田中	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	演習・実習	1

【授業の概要・目的】

理学療法評価や臨床推論を行う際に必要な知識を習得するため、実物標本やモデル標本を用いて、人体の形態と構造について理解を深める.

【学習目標(到達目標)】

①専門職にとっての形態学と構造学を述べることができる.

②形態学的知識を強化し, 身体運動に関係する諸器官の形態と機能の関係を説明できる.

③ご献体に敬意を持ち, 医療人として相応しい真摯な態度で実習を行うことができる.

【受講して得られる力】

知識・理解

専門職としてのスキル・意識

統合的学習体験

【履修上の注意】ご献体に接する際は、故人を尊重し感謝すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	学内解剖学実習(1)	脊柱の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
2	学内解剖学実習(2)	脊柱と胸郭の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
3	学内解剖学実習(3)	骨盤の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
4	学内解剖学実習(4)	上肢の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
5	学内解剖学実習(5)	上肢の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
6	学内解剖学実習(6)	下肢の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
7	学内解剖学実習(7)	下肢の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
8	学内解剖学実習(8)	頭蓋の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
9	学内解剖学実習(9)	頭蓋の骨に関しての知識を習得する。(実物標本やモデル標本)	個人・グループ
10	オリエンテーション	解剖学実習時の接遇面、注意点	個人・グループ
11	解剖学実習前特別講義(1) 河上先生	解剖学実習に際しての基本的知識と取り組みについて確認を行う。	個人
12	解剖学実習前特別講義(2) 河上先生	解剖学実習に際しての基本的知識と取り組みについて確認を行う。	個人
13	解剖学実習 9/16 or 9/24	オリエンテーション 標本の見学	グループ
14		ご献体の見学 体表・筋・血管・神経・内臓・骨・脳神経系の確認	
15		ご献体の見学 体表・筋・血管・神経・内臓・骨・脳神経系の確認	
期末試験	筆記試験(学内実習のみの場合)	評価方法	実習評価 100%

【教科書】	解剖学(PT/OTビジュアルテキスト) 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野真一 病院(作業療法士)7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業・活動の成り立ちを理解するため，ヒトの基本的な動き・運動を学ぶ．特にここでは様々な身体の動き・運動とその繋がりを理解・整理できることを目標とする．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 人体の部位や箇所の，複合的な運動の理解をする． ② 姿勢や基本的動作の基本的用語を理解する． ③ 健常者の姿勢，基本的動作の特徴を説明できる．	考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力

【履修上の注意】実技が中心になるが、必要な教科書を持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	科目ガイダンス	四肢・体幹の運動について，筋の起始停止，神経等について説明できる。（Keyword ； 骨学，関節学，筋学，神経学）	グループ
2	運動力学の基礎(1)	姿勢・動作を生体力学的に理解し、説明できる。 (Keyword ； 運動軸と面，重力，支持基底面，姿勢)	グループ
3	運動力学の基礎(2)	姿勢・動作を生体力学的に理解し、説明できる。 (Keyword ； てこ，力のモーメント，姿勢・動作)	グループ
4	姿勢(1)　基本姿勢・動作	姿勢の定義、分類について学び、様々な動作の中での基本姿勢について説明できる。（Keyword ； 構え，体位，アライメント）	グループ
5	姿勢(2)　臥位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。（Keyword ； 背・腹・側臥位，抗重力活動）	グループ
6	姿勢(3)　座位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。（Keyword ；各種座位，支持基底面）	グループ
7	姿勢(4)　立位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。（Keyword ； 重心線の位置，最適な立位）	グループ
8	基本姿勢のまとめ	前の4回の講義を統合し、それぞれの姿勢の特徴を整理する。	グループ
9	実技試験　(触診)	実技試験オリエンテーション。 臨床場面に適した接遇態度について理解する。	個人
10	体位変換(1)	体位変換(寝返り・起き上がり)について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword: 姿勢変換動作，パターン，動き出しの部位)	グループ
11	体位変換(2)	体位変換(立ち上がり)について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword ； 姿勢変換動作，パターン，動き出しの部位)	グループ
12	移動・歩行(1)	歩行の仕組みについて理解を深める。 (Keyword ； 歩行周期，分類，観察)	グループ
13	移動・歩行(2)	歩行について運動学的用語を用い説明できる。 (Keyword ； 分類による特有の役割，観察分析)	グループ
14	移動・車椅子	移動動作(車椅子)の動作について理解を深める。 (Keyword ； 車椅子の操作，身体の働き)	グループ
15	実技試験　(触診)	指示された部位についての触診手順を説明することが出来る。 患者役に対し、臨床に合わせた適切な対応を取ることができる。	個人

期末試験	前期試験	評価方法	筆記試験	60%	小テスト	10%
			実技試験	30%		

【教科書】	石川朗、種村留美 総編集:15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習 中村隆一著:基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
【参考書】	適時、講義内で紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	記載のKeywordを元に予習をすること。googleclassroomを通じて、事前に資料を配布.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野真一 病院(作業療法士)7年勤務			高野
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業・活動の成り立ちを理解するため，ヒトの基本的な動き・運動を学ぶ．特にここでは様々な身体の動き・運動とその繋がりを理解・整理できることを目標とする．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 人体の部位や箇所の，複合的な運動の理解をする． ② 姿勢や基本的動作の基本的用語を理解する． ③ 健常者の姿勢，基本的動作の特徴を説明できる．	考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力

【履修上の注意】 実技が中心になるが、必要な教科書を持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	移動・歩行 （疾患別特徴）	基本姿勢における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察することができる。（Keyword ； 片麻痺,脊髄損傷,関節障害,特徴）	グループ
2	基本動作のまとめ	体位交換における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察することができる。（Keyword ； 片麻痺,脊髄損傷,関節障害,特徴）	グループ
3	運動学的分析	移動・歩行における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察することができる。（Keyword ； 片麻痺,脊髄損傷,関節障害,特徴）	グループ
4	作業・動作分析(1)	基本姿勢・動作について疾患の特徴をふまえ、臨床場面における捉え方を理解する。	グループ
5	作業・動作分析(2)	運動学的分析について理解を深める。	グループ
6	作業・動作分析(3)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword ； 工程分析，動作分析)	グループ
7	作業・動作分析　発表報告①	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword ； 動作分析，運動分析)	グループ
8	作業・動作分析(4)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword ； 運動分析，気になる点を列挙する)	グループ
9	作業・動作分析(5)	前の3回で進めた課題の発表	グループ
10	作業・動作分析(6)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword ； 疾患の特徴，工程分析，動作分析，運動分析)	グループ
11	作業・動作分析　発表報告①	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword ； 気になる点を列挙する，考察)	グループ
12	作業・動作分析(7)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword ； 考察を裏付ける)	グループ
13	作業・動作分析(8)	前の3回で進めた課題の発表	グループ
14	移動・車椅子	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 レポート作成	個人
15	実技試験 （触診）	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 レポート作成	個人

期末試験	前期試験	評価方法	レポート 60%	課題の達成度 20%
			発表会の結果 20%	

【教科書】	隈元庸夫:症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作(ヒューマンプレス) 中村隆一著:基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
【参考書】	適時、講義内で紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 記載のKeywordを元に予習をすること。googleclassroomを通じて、事前に資料を配布．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
病理学	田村　浩一	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

「病気ってなに?」「人はなぜ病気になるの?」「病気になるとどうなるの?」ということを解き明かすのが病理学です.「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出るの?」を考えながら病気について学びましょう.

【学習目標(到達目標)】

①「病気ってなに?」を理解できる
②「人はなぜ病気になるの?」を理解できる
③「病気になるとどうなるの?」を理解できる
④「病気と正常はどこが違うの?」を理解できる
⑤「なぜ違いが出るの?」を理解できる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力

【履修上の注意】教科書, 配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	病因論	イントロダクション:病気ってなあに？ ヒトはなぜ病気にかかるの？	個人
2	遺伝子異常と発生発達異常	遺伝子の異常で病気になるしくみを知ろう 遺伝性疾患と先天性奇形は, どこが違う？	個人
3	細胞傷害と修復(1)	身体の傷はどうやって治る？ 完全に元通りに治せない場合の「修復」のしかたは？	個人
4	細胞傷害と修復(2)	組織が死んだあとはどうなるの？ 肥大や萎縮と修復の関係を知ろう	個人
5	代謝障害(1)	物質の代謝がうまくいかなくなるしくみを考えよう あなた, 貧血はありませんか？	個人
6	代謝障害(2)	糖尿病ってどんな病気？ 実は赤ちゃんの時から進んでいる, 動脈硬化のお話	個人
7	循環障害(1)	血の巡りが悪いパターンにはどんなものがある？ 心筋梗塞はなぜ起こる？	個人
8	循環障害(2)	エコノミークラス症候群はなぜ起こるの？ 医学的にいうショックとは？	個人
9	炎症(1)	炎症は身体の防御反応！？ サイトカインってなあに？	個人
10	炎症(2)	急性炎症と慢性炎症のちがいを知ろう 免疫のしくみを知ろう	個人
11	炎症(3)	花粉症はありませんか？アレルギーについて知っておかねばならないこと 自己免疫疾患ってどんな病気？	個人
12	腫瘍(1)	そもそも腫瘍って何だ？ 腫瘍についてのさまざまな用語を知ろう	個人
13	腫瘍(2)	癌(がん)と肉腫の違いは？ 悪性腫瘍の特徴を説明できますか？	個人
14	腫瘍(3)	どうしてがんになるの？ 腫瘍の病理診断(腫瘍の写真をみてみよう)	個人
15	まとめ	病理(細胞診・組織診・病理解剖)で何がわかるの？ 病理診断について知っておかなければならないこと	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	図解入門よくわかる病理学の基本としくみ(秀和システム)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書・配布資料を基に予習・復習をしっかり行って下さい

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床心理学	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

臨床心理学は面白くて役に立つ学問である．自己理解や対象者理解，対象者支援に活用することができる．リハ介入理論にどのように臨床心理学が応用されているか理解し，ひとに関わる専門職としての知識基盤を身につける．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①リハビリテーションに活用できる臨床心理学の基礎知識を身につけることができる．	知識・理解
臨床心理学を通した対象者理解と介入への知識・技法を身につける．	態度・志向性
心理検査の概要を理解し，検査結果の見方を身につけることができる．	情報活用能力
④リハビリテーションに有効活用できる心理学的な技法を体験し実践できる．	コミュンケーションスキル
⑤	

【履修上の注意】配布資料を忘れずに持参すること．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	臨床心理学とはなにか	基礎心理学を応用して現実世界で役立てる臨床心理学について理解する．	個人・ペア
2	心理検査1	パーソナリティとパーソナリティ検査について理解する．投影法と質問紙法の方法の違いついて理解する．	個人・ペア
3	心理検査2	知性と知能検査について理解する．知能検査の臨床的意味について理解する．	個人・ペア
4	心理検査3	神経心理学的検査とその他の心理検査について理解する．	個人・ペア
5	無意識・防衛機制と精神分析理論①	精神分析理論パラダイムの無意識・防衛機制といったキーワードからフロイトらの精神分析理論について理解する．	個人・ペア
6	無意識・防衛機制と精神分析理論②	精神分析理論パラダイムの無意識・防衛機制といったキーワードからフロイトらの精神分析理論について理解する．	個人・ペア
7	まとめ	講義の前半を中心に振り返り，臨床心理学についての理解を深める．	個人・ペア
8	クライエント中心と人間性心理学	人の「実現傾向」に重きをおいたロジャースらの人間性心理学について理解する．	個人・ペア
9	実験心理学と行動学習理論	実験心理学に基づく行動理論について理解する．人の学習と行動の結びつきを理解する．	個人・ペア
10	認知理論と認知行動療法	物事の捉え方をモデル化した認知理論について理解する．認知理論と行動理論が結びついた認知行動療法を理解する．	個人・ペア
11	臨床心理学を発展させた偉人	これまでの臨床心理学を発展させてきた偉人とその考え方や捉え方を理解する．	個人・ペア
12	それぞれの発達心理学	人の認知，感情，対人関係，パーソナリティなどの発達過程について理解する．	個人・ペア
13	心理療法のまとめ	理論に基づいた心理療法とその特徴と対象となる障害について理解する．	個人・ペア
14	臨床心理学とリハビリテーションの交流	臨床心理学的知見が現代のリハビリテーションにいかに組み込まれ応用されているかを理解する．	個人・ペア
15	まとめ	講義の後半を中心に振り返り，臨床心理学についての理解を深める．	個人・ペア

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100% 0%	

【教科書】	特になし
【参考書】	リハビリテーションのための臨床心理学．南江堂

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義時間内で取り組めるようにしています．講義内容をぜひ復習してください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内科学(1/2)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

内科学を系統立て、各疾患および治療等に対する理解を深め、以後のリハビリテーションに関わる際の基礎知識として役立てることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】

①疾患・治療に関する知識を習得する。
②疾患に関する知識を、作業療法の対象疾患としてとらえることができる。
③疾患・治療に関する知識を、他の専門科目と結び付けることができる。
④
⑤

【受講して得られる力】

考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】解剖学、生理学の復習をして授業に臨むことが望ましい。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	内科学総論①	内科診療の基本について学び、視診や触診などの診察方法のポイントや原理について理解する。	個人・グループ
2	内科学総論②	内科疾患に対して行われる種々の検査法、主な症候	個人・グループ
3	呼吸器疾患①	呼吸器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、呼吸器疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
4	呼吸器疾患②	呼吸器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な呼吸器疾患について理解する。	個人・グループ
5	呼吸器疾患③	呼吸器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な呼吸器疾患について理解する。	個人・グループ
6	循環器疾患①	循環器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、循環器疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
7	循環器疾患②	循環器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な循環器疾患について理解する。	個人・グループ
8	循環器疾患③	循環器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な循環器疾患について理解する。	個人・グループ
9	消化管疾患①	消化器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、消化器疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
10	消化管疾患②	消化器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な消化器疾患について理解する。	個人・グループ
11	消化管疾患③	消化器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な消化器疾患について理解する。	個人・グループ
12	肝・胆・膵疾患①	肝・胆・膵臓の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、肝・胆・膵疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
13	肝・胆・膵疾患②	肝・胆・膵疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な肝・胆・膵疾患について理解する。	個人・グループ
14	代謝性疾患①	代謝系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、代謝性疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
15	代謝性疾患②	代謝性疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な代謝性疾患について理解する。	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%
			課題の達成度 20%

【教科書】	なるほどなっとく内科学改訂第3版(南山堂)
【参考書】	特に定めない　解剖学、生理学、運動学の教科書を都度参考にすること

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】次の授業で触れる内容について、教科書に目を通しておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内科学(2/2)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

内科学を系統立て、各疾患および治療等に対する理解を深め、以後のリハビリテーションに関わる際の基礎知識として役立てることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】

①疾患・治療に関する知識を習得する。
②疾患に関する知識を、作業療法の対象疾患としてとらえることができる。
③疾患・治療に関する知識を、他の専門科目と結び付けることができる。
④
⑤

【受講して得られる力】

考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】解剖学、生理学の復習をして授業に臨むことが望ましい。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	内分泌疾患①	内分泌系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、内分泌疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
2	内分泌疾患②	内分泌疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な内分泌疾患について理解する。	個人・グループ
3	腎・泌尿器疾患①	腎・泌尿器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、腎・泌尿器疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
4	腎・泌尿器疾患②	腎・泌尿器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な腎・泌尿器疾患について理解する。	個人・グループ
5	脳・神経疾患①	脳・神経系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、脳・神経疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
6	脳・神経疾患②	脳・神経疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な脳・神経疾患について理解する。	個人・グループ
7	血液疾患①	血液・血球の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、血液疾患の各症候について理解する。	個人・グループ
8	血液疾患②	血液疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な血液疾患について理解する。	個人・グループ
9	膠原病・アレルギー疾患①	膠原病の検査法と主な治療法について学び、主要な膠原病について理解する。	個人・グループ
10	膠原病・アレルギー疾患②	アレルギー疾患の検査法と主な治療法について学び、主要なアレルギー疾患について理解する。	個人・グループ
11	感染症①	感染症の検査法と主な治療法について学び、主要な感染症について理解する。	個人・グループ
12	感染症②	感染症の検査法と主な治療法について学び、主要な感染症について理解する。	個人・グループ
13	環境要因に基づく疾患	熱中症など環境要因に起因する疾患について、どのような障害が起こるか理解する。	個人・グループ
14	中毒症	アルコール中毒や薬物中毒について理解し、どのような障害が起こるかを理解する。	個人・グループ
15	まとめ	内科学の授業で触れた疾患の振り返りを行い、作業療法との関連について理解を深める。	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%
			課題の達成度 20%

【教科書】	なるほどなっとく内科学改訂第3版(南山堂)
【参考書】	特に定めない　解剖学、生理学、運動学の教科書を都度参考にすること

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】次の授業で触れる内容について、教科書に目を通しておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
整形外科学(1/2)	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

整形外科疾患対象者の評価や治療を行う為に必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断の種類・方法や治療法の理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

①筋・骨格系の機能と構造を述べることが出来る。
②整形外科的診察法を具体的に述べることが出来る。
③代表的な整形外科疾患を分類し説明することができる。

【受講して得られる力】
専門職としてのｽｷﾙ・意識
知識・理解

【履修上の注意】解剖学,生理学,運動学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	骨の構造、生理	骨の構造について理解し、説明ができる	個人
2	骨のリモデリング	骨の修復過程について理解し、説明することができる	個人
3	関節の構造と分類	関節の構造について理解し、説明することができる	個人
4	関節軟骨の構造・機能	関節の構造について理解し、説明することができる	個人
5	骨格筋の分類と構造	骨格筋の構造や、筋線維の分類について説明することができる	個人
6	骨格筋の収縮	筋の収縮について説明することができる	個人
7	神経・痛み	神経系の全体像を説明できる	個人
8	肩関節疾患①	肩関節疾患を理解し、説明することができる	個人
9	肩関節疾患②	肩関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
10	肩関節疾患③	肩関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
11	肘関節疾患①	肘関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
12	肘関節疾患②	肘関節疾患を理解し、説明することができる	個人
13	肘関節疾患③	肘関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
14	手関節疾患①	手・手指関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
15	手関節疾患②	手・手指関節疾患を理解し、説明することができる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	

【教科書】	特になし
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
整形外科学(2/2)	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

整形外科疾患対象者の評価や治療を行う為に必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断の種類・方法や治療法の理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

①筋・骨格系の機能と構造を述べることが出来る。
②整形外科的診察法を具体的に述べることが出来る。
③代表的な整形外科疾患を分類し説明することができる。

【受講して得られる力】

専門職としてのｽｷﾙ・意識
知識・理解

【履修上の注意】解剖学,生理学,運動学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	股関節疾患①	股関節疾患を理解し、説明することができる	個人
2	股関節疾患②	股関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
3	股関節疾患③	股関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
4	膝関節疾患①	膝関節疾患を理解し、説明することができる	個人
5	膝関節疾患②	膝関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
6	膝関節疾患③	膝関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
7	足関節疾患①	足関節疾患を理解し、説明することができる	個人
8	足関節疾患②	足関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
9	足関節疾患③	足関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
10	脊椎疾患①	脊椎疾患を理解し、説明することができる	個人
11	脊柱疾患②	脊椎疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
12	脊椎疾患③	脊椎疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
13	外傷・スポーツ外傷①	外傷・スポーツ外傷を理解し、説明することができる	個人
14	外傷・スポーツ外傷②	外傷・スポーツ外傷に対する診察法や検査法を理解し実施できる。	個人
15	整形外科疾患　まとめ	整形外科疾患について理解し、説明できる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 課題の達成度　10%

【教科書】	特になし
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
神経内科学(1/2)	内柴佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

疾患の病態を理解するため，神経内科学の一般的知識を得る.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 各疾患の病態の特徴について説明できる. ① 各種疾患の症候について説明できる. ② 各種疾患の検査と治療について説明できる.	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	神経内科学の概要について学び、要点を理解する。	個人
2	中枢神経系の解剖と機能	神経内科学を理解するに必要な中枢神経系の構成や構造・機能などについて、理解し説明することができる。	個人
3	神経学的診断と評価	神経学的診断方法について学び、評価法の意義と実際を理解し、説明することができる。	個人
4	神経学的検査法	画像検査を中心とした各種検査方法について学び、病態弁別できるように理解し説明することができる。	個人
5	神経症候学 意識障害・頭痛・めまい・失神	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
6	神経症候学 運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
7	神経症候学 錐体外路徴候・不随意運動	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
8	神経症候学 運動失調・感覚障害	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
9	神経症候学 高次脳機能障害:注意障害	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
10	神経症候学 高次脳機能障害:記憶障害	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
11	神経症候学 高次脳機能障害:失行・失認・失語	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
12	神経症候学 高次脳機能障害:遂行機能	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
13	神経症候学 嚥下障害	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
14	脳神経外科領域疾患の代表的症候	各種症候や原因を学び、理解し説明することができる。	個人
15	まとめ	前期の講義のまとめを行い、全体を通して理解し説明することができる。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 （医学書院） 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 （MEDIC MEDIA）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 不明な点を翌日に持ち越さない姿勢で学習すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
神経内科学(2/2)	内柴　佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

疾患の病態を理解するため，神経内科学の一般的知識を得る.

【学習目標(到達目標)】
① 各疾患の病態の特徴について説明できる.
① 各種疾患の症候について説明できる.
② 各種疾患の検査と治療について説明できる.

【受講して得られる力】
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
情報活用能力

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	脳血管障害①	脳血管障害の病態について学ぶ. 脳血管障害の病態を説明できる.	個人
2	脳血管障害②	脳血管障害の病態について学ぶ. 脳血管障害の病態を説明できる.	個人
3	脳腫瘍・外傷性脳腫瘍	脳腫瘍・外傷性脳腫瘍の病態について学ぶ. 脳腫瘍・外傷性脳腫瘍の病態を説明できる.	個人
4	脊髄損傷	脊髄損傷の病態について学ぶ. 脊髄損傷の病態を説明できる.	個人
5	認知症 ①	アルツハイマー型認知症をはじめとする各認知症について学ぶ. 各認知症の病態を説明できる.	個人
6	認知症 ②	アルツハイマー型認知症をはじめとする各認知症について学ぶ. 各認知症の病態を説明できる.	個人
7	錐体外路の変性疾患 ①	パーキンソン病の病態と治療について学ぶ. 疾患の病態と治療について説明できる.	個人
8	錐体外路の変性疾患 ②	パーキンソン病の病態と治療について学ぶ. 疾患の病態と治療について説明できる.	個人
9	変性疾患・脱髄疾患	変性疾患・脱髄疾患の病態と症状について学ぶ. 各疾患の病態と症状について説明できる.	個人
10	末梢神経疾患・てんかん	末梢神経疾患・てんかんの病態について学ぶ. 末梢神経疾患・てんかんの病態を説明できる.	個人
11	筋疾患	筋ジストロフィーなどの筋疾患の病態について学ぶ. 筋疾患の病態について説明できる.	個人
12	感染性疾患，廃用症候群と誤用症候群	各種中枢神経感染症の特徴と治療について学ぶ. リハにおける合併症について病態を理解する.	個人
13	末梢神経疾患・てんかん	末梢神経疾患・てんかんの病態について学ぶ. 末梢神経疾患・てんかんの病態を説明できる.	個人
14	中毒性疾患，栄養欠乏により神経疾患，小児神経疾患，排尿疾患(佐藤)	中毒，栄養欠乏に伴う神経疾患，小児神経疾患について学ぶ. 各疾患の病態について説明できる.	個人
15	後期のまとめ	後期の講義のまとめを行い、全体を通して理解し説明することができる。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 （医学書院） 病気がみえる vol.7 脳・神経　第2版 （MEDIC MEDIA）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 不明な点を翌日に持ち越さない姿勢で学習すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
薬理学	田崎　政則	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

内科的治療の柱である「薬物療法」についての基礎的知識を学ぶ。
臨床でよく用いられる代表的薬物の薬理作用を理解する。

【学習目標(到達目標)】

①臨床でよく用いられる薬物の種類とその特性がわかる
②体内における薬物動態が理解できる
③薬物による生体反応のしくみと薬物の作用機序が理解できる
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力

【履修上の注意】復習を忘れないこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	薬理学の基礎知識①	薬理学の概要と、薬に関する法令について理解し、説明できるようになる。	個人
2	薬理学の基礎知識②	薬物の作用と、その効果に影響を及ぼす要因について理解する。	個人
3	薬理学の基礎知識③	薬物の適用と、薬物体内動態について理解する。	個人
4	薬理学の基礎知識④	薬物の副作用について理解する。	個人
5	薬理学の基礎知識⑤	医薬品の処方箋、剤形、取扱い、計量、新薬、ジェネリック薬についての知識も修得する。	個人
6	末梢神経作用薬	末梢神経作用薬について学ぶ。	個人
7	中枢神経作用薬	中枢神経作用薬について学ぶ。	個人
8	心臓血管系・血液造血系作用薬	心臓血管系・血液造血系作用薬について学ぶ。	個人
9	呼吸器系・消化器系作用薬	呼吸器系・消化器系作用薬について学ぶ。	個人
10	物質代謝作用薬	物質代謝作用薬について学ぶ。	個人
11	生殖器系作用薬・オータコイド	生殖器系作用薬・オータコイドについて学ぶ。	個人
12	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方について学ぶ。	個人
13	生物学的製剤・診断用薬、薬物中毒	生物学的製剤・診断用薬および薬物中毒について学ぶ。	個人
14	国家試験対策	過去の国家試験問題から病態および薬理学系の問題を抽出し解説する。	個人
15	内容のまとめ	これまでの内容を振り返り、理解を深める。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	薬理学　疾病のなりたちと回復の促進③　系統看護学講座　専門分野(医学書院)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】臨床医学や基礎医学との関係性について復習すること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
精神医学	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

五大疾病のなかで精神疾患はもっとも罹患者が多く、臨床現場で当事者を必ず受け持つことになるため、精神医学の正しい知識を身につけることが欠かせない。総論では歴史や症候学、診断学について概説する。各論では、個々の疾患の症状や治療について解説する。

【学習目標(到達目標)】

①総論として、精神医学の歴史、症候学、診断学について理解し、説明できる。
②各論として、個々の精神疾患について疫学や症状、治療について理解し、説明できる。
③リハビリテーションを実施するうえで、精神疾患に配慮した関わりを理解し、説明できる。
④精神疾患にまつわる社会のスティグマ(偏見)について、正しい知識のもと解決のため取り組める。
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
統合的学習体験

【履修上の注意】 分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション・精神医学総論(1) pp.14～40	精神医学について歴史を踏まえて理解する PT、OTになぜ精神医学が重要なのか理解する	個人
2	精神医学総論(2) pp.41～65	精神科診断学・精神症候学について理解する 面接や評価の方法を理解する	個人
3	器質性・症状性精神障害 pp.66～87	代表的な認知症の4分類について理解する てんかんの病態、発作の分類について理解する	個人
4	精神作用物質使用による精神および行動の障害 pp.88～99	精神作用物質の影響について理解する 依存と離脱について理解する	個人
5	統合失調症および関連疾患① pp.100～113	陽性症状と陰性症状について説明できる 統合失調症の治療について理解できる	個人
6	統合失調症および関連疾患② pp.100～113	陽性症状と陰性症状について説明できる 統合失調症の治療について理解できる	個人
7	気分障害(うつ病・双極性障害) pp.114～127	うつ病の症状について理解する 双極性障害のそう状態について理解する	個人
8	神経症性障害、ストレス関連障害①および身体表現性障害 pp.128～141	神経症性障害の各疾患について理解する ストレス関連障害の身体への影響について理解する	個人
9	神経症性障害、ストレス関連障害②および身体表現性障害 pp.128～141	神経症性障害の各疾患について理解する ストレス関連障害の身体への影響について理解する	個人
10	生理的障害および身体的要因に関連した行動障害 pp.142～152	神経性無食欲症と神経性過食症について理解する 睡眠覚醒障害について理解する	個人
11	パーソナリティ障害と行動の障害 pp.153～159	気質、性格、人格の違いについて理解する パーソナリティ障害の種類と特徴を理解する	個人
12	児童青年期の精神障害 pp.160～172	知的障害の特徴について理解する 自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害について理解する	個人
13	精神疾患の治療 pp.190～208	精神療法と身体療法について理解する 向精神薬の種類と作用について理解する	個人
14	精神科リハビリテーションと関連法規 pp.209～228	精神科リハビリテーションについて説明できる 精神保健福祉法と医療観察法の概要を理解する	個人
15	講義のまとめ		個人
期末試験	前期期末試験	評価方法：筆記試験 100%	

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎　精神医学(羊土社)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 シラバスに記載されているページを必ず読み参加すること

【本講義に関しての質問先】 担当教員　【質問方法】 教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
小児科学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	田中絹代 肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務（内JICA5年、作業療法士）	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法士として接する機会が多い小児疾患について、その病態と発達との関連を理解する. 国家試験該当科目

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①母子保健・小児保健の概要について説明できる ①小児期に多い疾患・障害について説明できる ②作業療法士としての、小児疾患への関わり方を理解する ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力 論理的思考力

【履修上の注意】1年次の「人間発達学」を復習して取り組んでください

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	総論	作業療法士として接する機会の多い小児疾患の概要について説明できる	個人
2	小児の成長・発育と発達	小児の発達について知識を確認する	個人
3	母子保健・小児保健①	母子手帳や乳幼児健診の資料から「母子保健・小児保健の概要について理解する	グループ
4	母子保健・小児保健②	グループ内発表と質疑応答を通して、母子保健・小児保健を理解する	グループ
5	新生児・未熟児疾患①	新生児期の用語・定義と新生児期の評価について説明できる	個人
6	新生児・未熟児疾患②	新生児・未熟児の特徴を理解し，関連する疾患について説明できる	個人
7	先天異常・遺伝病①	先天異常と遺伝の用語・定義について理解する	個人
8	先天異常・遺伝病②	先天異常・遺伝病の特徴や関連する疾患について理解する	個人
9	精神心理障害①	小児の精神心理疾患とその特徴ついてグループ発表と質疑応答を通して理解する	グループ
10	精神心理障害②	小児の精神心理疾患・障害の特徴と関連する疾患について説明することが出来る	個人
11	神経・筋・骨疾患①	小児に多い神経・筋・骨疾患とその特徴についてグループ活動と質疑応答を通して理解する	グループ
12	神経・筋・骨疾患②	小児に多い神経・筋・骨疾患とその症状ついて説明することが出来る	個人
13	内部疾患①	小児に多い内部疾患について発生過程と関連して理解する	個人
14	内部疾患②	小児に多い感染症の特徴や関連する疾患について説明することが出来る	個人
15	まとめ	小児期の基本的な疾患について説明する	グループ

期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 70%	課題の達成度 20%
			授業への貢献 10%	

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版 （医学書院）
【参考書】	適時紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ発表の準備

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
老年学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子、内柴　佑基 病院（作業療法士）6年勤務、病院（作業療法士）7年勤務	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

老年期作業療法に必要な基礎的な内容について学習し，特に老年期において特に配慮すべき事項を理解する.

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①高齢者の現状と老年期におけるリハビリテーションの役割ついて理解できる.	チームで働く力
②加齢性変化や，高齢者特有の疾病・障害を理解できる.	知識・理解
③高齢者を支援するうえで必要な医療・福祉制度を理解できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	統合的学習体験
⑤	問題解決力

【履修上の注意】生理学・運動学・解剖学などについて確認のうえ，講義に臨むこと.

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	老年学総論 薄井純	日本および世界における高齢者の現状と課題，リハビリの果たすべき役割，社会保障制度について理解する	個人
2	老年症候群① 薄井純	廃用症候群・フレイル・サルコペニア，運動器疾患の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する.	個人
3	老年症候群② 薄井純	意識障害・失神・めまい・せん妄の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する	個人
4	老年症候群③ 薄井純	低栄養・褥瘡の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する	個人
5	老年症候群④ 薄井純	脱水・浮腫・電解質異常、嚥下障害の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する	個人
6	老年症候群⑤ 薄井純	老年期の評価とその実践を理解する	個人
7	老年期の内部障害 薄井純	老年期の内部疾患の特徴や対応を理解する	個人
8	老年期の内部障害 薄井純	老年期の内部疾患の特徴や対応を理解する	個人
9	整形外科疾患 薄井純	老年期の骨折とリスク管理について理解する	個人
10	認知症(総論、MCI、AD、VaD) 内柴	認知症の基本的知識と各タイプ別（AD、VaD）の臨床像を理解することができる。	個人
11	認知症（DLB、FTLD）、老年期うつ病 内柴	認知症の各タイプ別（DLB、FTLD）の臨床像、老年期うつ病の臨床像を理解することができる。	個人
12	神経疾患 薄井純	高齢者に多い、中枢神経系疾患を理解することができる。	個人
13	高齢者のリハビリテーション 薄井純	老年期の疾患や病態に対しての治療方法について理解することができる	グループ
14	高齢者のリハビリテーション 薄井純	老年期の疾患や病態に対しての治療とリスク管理について理解することができる	グループ
15	福祉の社会資源と法律 薄井純	高齢者を取り巻く環境を理解し，保険やサービス制度，人生の最終段階における医療などについて理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%	受講態度 10%
			課題の達成度 20%	

【教科書】	リハビリテーション基礎講座　老年学（医歯薬出版）
【参考書】	都度紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】次回講義内容を事前に教科書で確認する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内部障害学	高野真一	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に，臨床において経験すると思われる代表的な疾患について正確な病態を解説し，リハビリテーション治療に応用できる知識の習得を目標とする.

【学習目標(到達目標)】

①内部障害の特徴と支援における社会制度を理解する.
②内部障害者の特徴とリハビリテーション(作業療法)支援の方法を理解する.
③内部障害に対する検査データの解釈と医学的治療について理解する.
④リハビリテーションと栄養ケアの協働について理解する.
⑤習得した知識を用いて事例に対する病態の解釈を述べることができる.

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
考え抜く力

【履修上の注意】内科学の復習が大切です．必要に応じて内科学の資料・プリントを持ち込んでください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	内部障害学総論	内部障害の定義，代表的な内部障害と症状，推移について説明できる.	個人
2	各論①呼吸器疾患	呼吸器に関わる解剖整理の復習，代表的な呼吸器疾患と検査データ，医学的治療について説明できる.	個人
3	各論①呼吸器疾患	呼吸器に関わる解剖整理の復習，代表的な呼吸器疾患と検査データ，医学的治療について説明できる.	個人
4	各論②循環器疾患	循環器に関わる解剖整理の復習，代表的な循環器疾患と検査データ，医学的治療について説明できる.	個人
5	各論②循環器疾患	循環器に関わる解剖整理の復習，代表的な循環器疾患と検査データ，医学的治療について説明できる.	個人
6	各論②循環器疾患	循環器疾患に対する標準的な支援を理解し，作業療法士が実施する評価を説明することができる.	個人
7	各論③糖尿病	糖尿病に関わる解剖整理の復習，代表的な糖尿病と検査データ，医学的治療について説明できる.	個人
8	各論③糖尿病	糖尿病に対する標準的な支援を理解し，作業療法士が実施する評価を説明することができる.	個人
9	各論④がん	がん(悪性腫瘍)の特徴，代表的ながんと検査データ，医学的治療について説明できる.	個人
10	各論④がん	がん(悪性腫瘍)に対する標準的な支援を理解し，作業療法士が実施する評価を説明することができる.	個人
11	事例学習①	事例を通じて，評価情報を用いた対象者の全体像をまとめ，説明することができる.	グループ
12	事例学習②	事例を通じて，評価情報を用いた対象者の全体像をまとめ，説明することができる.	グループ
13	事例学習③	事例を通じて，評価情報を用いた対象者の全体像をまとめ，説明し，発表することができる.	グループ
14	リハビリテーションと栄養総論	リハビリテーション栄養の定義と背景を理解し，NSTにおける作業療法士の役割を説明できる.	個人
15	各論⑤リハビリテーション 栄養ケアのプロセス	リハビリテーション栄養プロセスを理解し，必要なアセスメント(評価，診断推論)について説明することができる.	個人

期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験 80%	発表会の結果 20%

【教科書】	上杉 監:PT・OT入門 イラストで分かる内部障害(医歯薬出版) 浅野 編:なるほどなっとく内科学 改訂第3版(南山堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	次回講義内容を事前に教科書で確認する		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
疾病と障害の成り立ち	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法治療学において、内科学・整形外科学・神経内科学・精神医学・病理学・薬理学といった臨床医学の知識を活用できるように整理できる。疾患・障害の構造について、神経・解剖・運動・生理学的な側面での理解ができる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①臨床医学的な基本的知識を系統立てて説明できる。	考え抜く力
②疾病と障害の成り立ちについて生理学的に説明できる。	知識・理解
③疾病と障害の成り立ちについて神経学的に説明できる。	論理的思考力
④疾病と障害の成り立ちについて解剖学的・運動学的に説明できる。	

【履修上の注意】事前に授業の予定を確認し、それに合わせた教科書を持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	内科学:呼吸器疾患	呼吸器系疾患の知識を整理し、要点を説明できる。	個人
2	内科学:循環器疾患	循環器疾患について知識を整理し、要点を説明できる。	個人
3	内科学:消化器疾患	消化器疾患について知識を整理し、要点を説明できる。	個人
4	内科学:内分泌系疾患・代謝系疾患	内分泌系疾患、代謝系疾患について知識を整理し、要点を説明できる。	個人
5	内科学:血液疾患・腎泌尿器系疾患	腎疾患、血液疾患、について知識を整理し、要点を説明できる。	個人
6	整形外科学:変形性関節症・慢性関節リウマチ	変形性関節症、慢性関節リウマチについての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
7	整形外科学:末梢神経障害・各種検査	末梢神経障害についての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
8	整形外科学:骨折・脱臼	骨折についての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
9	神経内科学:脳腫瘍・頭部外傷	脳腫瘍・頭部外傷についての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
10	神経内科学:変性疾患・脱髄疾患	神経変性疾患・神経脱髄疾患の基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
11	神経内科学:筋疾患	筋疾患の基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
12	精神医学:統合失調症	統合失調症についての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
13	精神医学:気分障害	気分障害についての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
14	精神医学:パーソナリティー障害	神経症やパーソナリティー障害についての基礎知識を整理し、要点を説明できる。	個人
15	講義のまとめ	講義で確認した基本的知識の振り返りを行い、各疾患について確認し、説明ができる。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%
			小テスト 40%

【教科書】	内科学・整形外科学・神経内科学・精神医学・病理学で使用する教科書を講義内容に合わせて使用する。
【参考書】	随時、紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】毎回小テストを実施するので、自宅学習を怠らないこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

3. 専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
応用作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野真一 病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

基礎作業療法学で学んだ作業活動だけでなく、治療構造・関わり方の枠組みや意味を理解する。自己の治療的利用を含め、作業療法士としてどういった意図で関わるかについても理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①治療構造とその効果について説明できる ②自己の治療的利用のため、自己の特徴とその活かし方を説明できる ③対象者の身体的、心理的状態に配慮した環境設定について説明できる ④ ⑤	チームで働く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル

【履修上の注意】 分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	基礎作業療法学の振り返り	作業療法士が作業をどのように活用するか、作業と健康がどのように関係するかを復習する	個人
2	切り絵1	活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する	個人
3	切り絵2	活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する	個人
4	治療構造論	時間、集団の数、集団の構造、治療の枠組み、関わりの方針など、意図的に設定する治療構造について理解する	個人
5	自己の治療的利用	年齢、性別、経験、パーソナリティなどそれぞれ個人の持つ強みや弱みを理解し、治療に活かせる	個人
6	作業活動のトピック①	スポーツダーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。 作業が与える影響について考える力を身につける。	グループ
7	作業活動のトピック②	スポーツダーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。 作業が与える影響について考える力を身につける。	グループ
8	作業活動のトピック③	e-スポーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。 作業が与える影響について考える力を身につける。	グループ
9	作業活動のトピック④	e-スポーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。 作業が与える影響について考える力を身につける。	グループ
10	作業活動のトピック⑤	リハビリDX・生成AI演習から作業療法手段の可能性を学ぶ。	グループ
11	作業活動のトピック⑥	リハビリDX・生成AI演習から作業療法手段の可能性を学ぶ。	グループ
12	調理	生活に根付く調理活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する	グループ
13	調理	生活に根付く調理活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する	グループ
14	作業の成果	「作業活動のトピック」6回～11回を通じた作業の成果を考察する。	グループ
15	まとめ	「作業活動のトピック」6回～11回を通じた作業の成果を発表する。	グループ

期末試験	レポート	評価方法	レポート 70% 受講態度 30%

【教科書】	作業療法実践の理論(医学書院) つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版(医歯薬出版)
【参考書】	作業で語る事例報告　第2版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 分からない点は講義内で質問し、教科書を中心に復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
応用作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸 病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

より実践的な作業療法を理解するために、作業療法の理論を理解し、対象者にどのような実践モデルが適応できるか、専門家と対象者でどのように目標設定していくかを理解する。また、事例を元に臨床家がどのように思考を整理しているか実例から学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①作業療法の代表的な理論について説明できる ②作業療法のパラダイム、概念的実践モデル、関連知識の階層を説明できる ③対象者に応じた概念的実践モデルの選択について説明できる(2種類以上) ④対象者の状況に応じて、介入の方向性(回復・代償・習得・教育)の選択について説明できる ⑤多様なクリニカルリーズニングだけでなく、対象者と協働意思決定するSDMについて説明できる	チームで働く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	作業療法の近代史	作業パラダイムから機械論パラダイム、そして作業パラダイムへの回帰について理解する	個人
2	作業療法の理論　1	現在の作業療法の2大理論について理解する	個人
3	作業療法の理論　2	現在の作業療法の2大理論について理解する	個人
4	作業的存在としての作業歴	本質主義と社会構成主義について理解する 作業的存在としての作業歴の重要性を理解する	個人
5	クリニカルリーズニング	基本的なクリニカルリーズニング(臨床推論)の視点を理解して、関わり方について検討する	個人
6	概念的実践モデル　1	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する	個人
7	概念的実践モデル　2	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する	個人
8	概念的実践モデル　3	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する	個人
9	概念的実践モデル　4	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する	個人
10	事例検討　1 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	概念的実践モデルの視点から対象者を評価して、介入する一連のリーズニング過程を理解する	グループ
11	事例検討　2 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	概念的実践モデルの視点から対象者を評価して、介入する一連のリーズニング過程を理解する	グループ
12	事例検討　3 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	概念的実践モデルの視点から対象者を評価して、介入する一連のリーズニング過程を理解する	グループ
13	事例検討　4 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	それぞれの事例のリーズニングと概念的実践モデルの使用方法について発表する	グループ
14	生活行為向上マネジメント　1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念と使い方を理解し、演習にて情報を整理する	グループ
15	生活行為向上マネジメント　2	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念と使い方を理解し、演習にて情報を整理する	グループ
期末試験	後期期末試験	評価方法　筆記試験　100%	

【教科書】	作業療法実践の理論(医学書院)
【参考書】	作業で語る事例報告　第2版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】配布された予習課題に取り組むようにしてください.

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法研究法 I	内柴 佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法を対象とした研究について、概要を学び、文献や論文を抄読できる力を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①研究について、研究のプロセスを説明できる ②良い研究の種類、研究の種類について説明できる ③研究の構造について説明できる ④研究計画の立て方を説明できる ⑤研究倫理の重要性を説明できる	知識・理解 情報活用能力 問題解決力 統合的学習体験

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	研究とは何をするのか	研究の流れやリサーチクエスチョンについて学び、理解する。	個人
2	研究の倫理	研究の倫理について学び、理解する。	個人
3	研究の類型	研究の類型や形を学び、理解する。	個人
4	研究にかかわる基礎知識	研究に関わる手順や論文の構成について学び、理解する。	個人
5	論文の読み方 1	実際の論文を抄読し、内容をまとめる。	個人
6	論文の読み方 2	実際の論文を抄読し、内容をまとめる。	個人
7	研究論文の発表と手続き	研究発表における手順や流れについて学び、理解する。	個人
8	信頼性と妥当性のある評価尺度	信頼性と妥当性の意味を理解する 使用できる評価尺度にはどのようなものがあるか理解する	個人
9	臨床研究の実践例と動向	臨床で行われている研究について学び、理解する。	個人
10	研究計画の立て方	研究計画書(プロトコル)の構成について理解する 目的、研究種類、対象、エンドポイントなどを理解する	個人
11	研究テーマと計画 1	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する	グループ
12	研究テーマと計画 2	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する	グループ
13	研究テーマと計画 3	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する	グループ
14	研究テーマと計画 4	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する	グループ
15	研究テーマと計画 5	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する	グループ

期末試験	評価方法		
なし		授業への貢献	50%
		受講態度	50%

【教科書】	作業療法研究法 第2版(医学書院)
【参考書】	適宜紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	医学雑誌やJ-stage、PubMEDなどを活用して医学論文に触れること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川　孝幸 病院（作業療法士）7年勤務			羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法評価学Ⅰでは、主に精神科領域の知識のほか、評価の基本となる観察と面接を中心に学習を行う。観察や面接は定性的評価であり、恣意的な解釈になりやすいが、適切に用いられれば細かな情報を得ることができ、本講義では評価のポイントを学習する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①精神障害者と精神医療の変遷について説明できる ②精神科リハビリテーションがどのように行われているか説明できる ③日本と世界の精神医療について説明できる ④作業療法の効果について限界を含めて説明できる ⑤評価の核である面接と観察を理解し、実施できる	考え抜く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価、課題についてのオリエンテーション 一般社会の偏見ではなく、精神障害の真実を理解する	個人
2	精神障害施策と歴史	精神障害者施策と精神障害の治療の歴史を理解する これまでの精神障害の差別と人権について理解する	個人
3	精神科医療の役割	精神医療に関連する職種やチームのあり方について理解する	個人
4	世界の精神科医療	イタリアのバザリア法から日本の精神医療の現状を理解する	個人
5	これからの精神科医療	リカバリー、エンパワメント、ストレングスについて理解する クライエント中心の作業療法について理解する	個人
6	作業療法の実践	精神科作業療法について理解する 精神科デイケアについて理解する	個人
7	精神科作業療法の評価　1	精神科作業療法の概要について理解する 情報収集、観察、面接、検査、尺度の意義を理解する	個人
8	精神科作業療法の評価　2	情報（一般情報・医学的情報）の内容と解釈について理解する 情報収集の整理の仕方について理解する	個人
9	精神科作業療法の評価　3	観察の種類や用い方、特徴について理解する 観察の視点を学び、実施、解釈することについて理解する	個人
10	精神科作業療法の評価　4	面接の種類や用い方、特徴について理解する COPMを使った面接を理解する	個人
11	精神科作業療法の評価　5	検査や評価尺度の種類、内容、利用方法について理解する 客観的評価と主観的評価の双方の意味について理解す	個人
12	精神科作業療法の評価　6	精神科作業療法を行う上での評価の視点について理解する 得られた情報からニーズに応じた統合と解釈を理解する	個人
13	精神科作業療法の評価　7	統合失調症の評価についてPBLで理解する	個人
14	精神科作業療法の評価　8	統合失調症の評価についてPBLで理解する	グループ
15	精神科作業療法の評価　9	統合失調症の評価についてPBLで理解する	グループ

期末試験	前記期末試験	評価方法	筆記試験　80% レポート　20%

【教科書】	最新作業療法学講座　精神障害作業療法学（医歯薬出版） 精神科病院を出て、町へ（岩波書店）／主観的感覚と生きづらさに寄り添う（メジカルビュー社）
【参考書】	図説　精神障害リハビリテーション（中央法規出版）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習課題を事前に提出すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法演習Ⅲ	田中 絹代	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義・演習	1

【授業の概要・目的】

デイサービスや放課後等デイサービス，地域活動支援センターでの企画運営を通して，臨地実習で必要とされる企画力・計画性・コミュニケーション技術・協調性を身に着けることができる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会人として必要な挨拶・報連相・話し合って折り合う力などコミュニケーション力を身に着ける. ②自らがレクリエーションや遊びを企画し，実践までの準備を計画的に行うことができる. ③実践で得られた経験を基に自ら獲得すべき能力を自覚して改善のための行動計画を立案できる. ④1人1人が自主性・積極性をもった行動ができ，他者と協力して目標を達成することができる. ⑤障害を持った方が望むサポート・望まないサポートを理解することができる.	コミュンケーションスキル 問題解決力 態度・志向性

【履修上の注意】臨地実習の基本的な態度を学ぶ講義ですので主体的に参加してください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	演習に関するガイダンス 田中	作業療法演習Ⅲの到達目標を理解し説明できる. 社会人基礎力をチェックし自己理解を深め目標を設定できる.	グループ
2	当事者との交流会 田中	当事者の視点から必要な支援を学び，障害を持つ方への理解を深め、学外演習の企画に反映する.	グループ
3	体験演習に必要な準備① 田中・羽川	体験演習の実施に向けて、計画の概案を立てることが出来る。	グループ
4	体験演習に必要な準備② 田中・羽川	体験演習を実践する施設の対象者・特徴などについて訪問等を通して知り、体験演習の準備をすることができる.	グループ
5	体験演習に必要な準備③ 田中・羽川	体験演習で実践する企画を立案し，グループで具体化していくことが出来る。	グループ
6	体験演習に必要な準備④ 田中・羽川	体験演習で実践する企画について事業者の意見を反映させて修正できる.	グループ
7	事前演習① 田中・羽川	学内で体験演習で企画した内容を実践する. フィードバックを基に修正し，実践場面への準備性を高められる.	グループ
8	事前演習② 田中・羽川	学内で体験演習で企画した内容を実践する. フィードバックを基に修正し，実践場面への準備性を高められる.	グループ
9	事前演習③ 田中・羽川	学内で体験演習で企画した内容を実践する. フィードバックを基に修正し，実践場面への準備性を高められる.	グループ
10	事前演習④ 田中・羽川	学内で体験演習で企画した内容を実践する. フィードバックを基に修正し，実践場面への準備性を高められる.	グループ
11	体験演習① 田中・羽川	企画した内容を実践します. 実践課程で得られた体験を振り返り，目標の達成度合いを説明することができる.	グループ
12	体験演習② 田中・羽川	企画した内容を実践する. 実践課程で得られた体験を振り返り，目標の達成度合いを説明することができる.	グループ
13	体験演習③ 田中・羽川	企画した内容を実践する. 実践課程で得られた体験を振り返り，目標の達成度合いを説明することができる.	グループ
14	体験演習④ 田中・羽川	企画した内容を実践する. 実践課程で得られた体験を振り返り，目標の達成度合いを説明することができる.	グループ
15	体験演習のまとめ 田中・羽川	演習で得られた体験を説明でき，明らかになった課題について理解を深め，改善のため行動計画を説明できる.	グループ

期末試験		評価方法				
			受講態度	10%	発表会の結果	30%
			授業への貢献	30%	レポート	30%

【教科書】	講義の際に随時紹介します.
【参考書】	講義の際に随時紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】企画した遊びやレクリエーションの準備を体験演習前に行う必要があります.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法評価学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野真一 病院(作業療法士)7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し，作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する．各検査・測定法についての実技形式を中心とする．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①検査，測定の意義，方法，結果の解釈に必要な知識を習得する．	考え抜く力
②検査，測定の方法を理解，説明できる．	チームで働く力
③検査，測定の技術を身につけ，模擬的に実施できる．	知識・理解
④疾患に対して適切な評価項目を列挙することができる．	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤	態度・志向性

【履修上の注意】 実習室を使用する際は実習着を着用する．毎回，確認して準備すること．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	作業療法と評価 高野	作業療法における評価の意義や目的を理解し，説明できるようになる．	個人
2	作業療法評価の流れ 高野	評価の時期，ICFに則した評価項目，評価のまとめから問題点の抽出，治療計画立案まで流れを理解する．	個人
3	評価結果の記録と報告 高野	評価内容の記録と報告の重要性について，その意義と特徴を理解し，模擬的に実施できるようになる．	個人
4	面接，観察による評価 高野	評価における面接の技法，観察からの評価の重要性について理解し，模擬的に実施できるようになる．	個人
5	関節可動域の評価① 高野	関節可動域の評価を行う意義について学び，関節可動域の評価方法を理解，説明できるようになる．	個人
6	関節可動域の評価② 高野	上肢を中心に関節可動域の評価を模擬的に行い，正確に実施できるようになる．	グループ
7	関節可動域の評価③ 高野	下肢を中心に関節可動域の評価を模擬的に行い，正確に実施できるようになる．	グループ
8	関節可動域の評価④ 高野	体幹を中心に関節可動域の評価を模擬的に行い，正確に実施できるようになる．	グループ
9	関節可動域測定の確認① 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる．	グループ
10	関節可動域測定の確認② 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる．	グループ
11	関節可動域測定の確認③ 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる．	グループ
12	筋緊張検査 高野	筋緊張検査の意義について学び，反射検査を正確に実施できるようになる．	個人
13	形態計測 高野	形態計測の意義について学び，形態計測を実施するためのランドマークを触診し，測定できるようになる．	個人
14	形態計測の確認 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した形態計測が行えるようになる．	グループ
15	発達の評価① 田中	発達のスクリーニングテストの方法と手順を理解し実施できる．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%
			実技試験 40%

【教科書】	標準作業療法学　作業療法評価学第3版(医学書院)，新・徒手筋力検査法　原著第10版(協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた　改訂18版(南山堂)
【参考書】	授業で紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	次回講義内容を事前に教科書で確認する		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法評価学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野真一 病院(作業療法士)7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し，作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する．各検査・測定法についての実技形式を中心とする．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①検査，測定の意義，方法，結果の解釈に必要な知識を習得する．	考え抜く力
②検査，測定の方法を理解，説明できる．	チームで働く力
③検査，測定の技術を身につけ，模擬的に実施できる．	知識・理解
④疾患に対して適切な評価項目を列挙することができる．	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤	態度・志向性

【履修上の注意】 実習室を使用する際は実習着を着用する．毎回，確認して準備すること．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	発達の評価② 田中	発達のスクリーニングテストの方法と手順を理解し実施できる．	グループ
2	意識障害の評価 高野	意識障害の特徴を理解し，評価方法を習得する．	個人・グループ
3	バイタルサインの評価 高野	バイタルサインを確認することの重要性を理解し，実践できるようになる．	個人・グループ
4	反射検査① 高野	反射検査の意義について学び，反射検査を正確に実施できるようになる．	個人
5	反射検査② 高野	反射検査の意義について学び，反射検査を正確に実施できるようになる．	グループ
6	徒手筋力検査(MMT)① 高野	筋力検査の意義や目的を理解し，検査方法の基礎を説明できるようになる．	個人
7	徒手筋力検査(MMT)②上肢 高野	MMTの方法と手順を理解して，上肢のMMTを模擬的に実施できるようになる．	グループ
5	徒手筋力検査(MMT)③下肢 高野	MMTの方法と手順を理解して，下肢のMMTを模擬的に実施できるようになる．	グループ
6	徒手筋力検査(MMT)④体幹・その他 高野	MMTの方法と手順を理解して，体幹およびその他のMMTを模擬的に実施できるようになる．	グループ
7	徒手筋力検査(MMT)の確認① 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる．	グループ
8	徒手筋力検査(MMT)の確認② 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる．	グループ
9	徒手筋力検査(MMT)の確認③ 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる．	グループ
13	徒手筋力検査(MMT)の確認④ 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる．	グループ
14	知覚の評価① 高野	知覚の評価を行う意義について学び，表在感覚および深部感覚の評価方法を理解，説明できるようになる．	個人
15	知覚検査の確認① 高野	模擬患者を対象として，被験者の情報に適した知覚検査が行えるようになる．	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 実技試験 40%	

【教科書】	標準作業療法学　作業療法評価学第3版(医学書院)，新・徒手筋力検査法　原著第10版(協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた　改訂18版(南山堂)
【参考書】	授業で紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	次回講義内容を事前に教科書で確認する		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法評価学Ⅲ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川孝幸[1)]、内柴 佑基[2)] 1)病院(作業療法士)7年勤務、2)病院(作業療法士)7年勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。

【学習目標(到達目標)】

① 検査、測定の意義・方法・結果の解釈に必要な知識を習得する.
② 検査・測定の方法を理解する.
③ 検査・測定の技術を身につける.
④ 疾患に対する評価項目を列挙することができる.
⑤客観(研究者立脚型)、主観(患者立脚型)の評価の違いを説明できる.

【受講して得られる力】

考え抜く力
チームで働く力
情報活用能力
問題解決力
論理的思考力

【履修上の注意】実習室を使用する際は実習着を着用する。毎回、確認して準備すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	精神科領域の評価 1 羽川	実際に代表的な検査を実施し、精神科の評価を理解する	個人
2	精神科領域の評価 2 羽川	精神科領域の評価の意義について理解する	個人
3	精神科領域の評価 3 羽川	主観性の評価 ISDA、SMSFについて理解する	個人
4	精神科領域の評価 4 羽川	社会生活の評価① Rehabについて理解する	個人
5	精神科領域の評価 5 羽川	社会生活の評価② LASMIとGAFについて理解する	個人
6	精神科領域の評価 6 羽川	認知機能の評価 BACS-J、ScoRSについて理解する	個人
7	精神科領域の評価 7 羽川	精神症状の評価 BPRS, PANSS, SAPS, SANSについて理解する	個人
8	精神科領域の評価 8 羽川	知的機能の評価 WAIS-Ⅲの構成と評価方法について理解する	個人
9	精神科領域の評価 9 羽川	関連する心理検査① 各種心理検査を説明できる	グループ
10	精神科領域の評価 10 羽川	関連する心理検査② 各種心理検査を説明できる	グループ
11	脳神経検査① 内柴	脳神経系の機能、障害像について理解し、各症状について説明できる。	ペア・グループ
12	脳神経検査② 内柴	脳神経系の機能、障害像について理解し、各症状について説明できる。	ペア・グループ
13	画像評価① 内柴	画像所見から重要な情報を収集することができる。障害の内容や重症度、リハビリの阻害因子は把握することができる	ペア・グループ
14	画像評価② 内柴	画像所見から重要な情報を収集することができる。障害の内容や重症度、リハビリの阻害因子は把握することができる	ペア・グループ
15	上肢機能検査① 内柴	各種上肢機能テストを理解し、実施方法を説明できる。 (Key word:握力, ピンチ力, リーチ検査)	ペア・グループ

期末試験	後期試験	評価方法	筆記試験 70% 実技試験 30%

【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版)、 ベッドサイドの神経の診かた 第17版(南山堂)
【参考書】	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価(医学書院) 逐次, 講義の中で紹介する.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】次回講義の内容について、評価学の教科書に目を通しておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法評価学Ⅲ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川孝幸1），内柴 佑基2) 1)病院(作業療法士)7年勤務，2)病院(作業療法士)7年勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し，作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する．各検査・測定法についての実技形式を中心とする．

【学習目標(到達目標)】

① 検査，測定の意義・方法・結果の解釈に必要な知識を習得する．
② 検査・測定の方法を理解する．
③ 検査・測定の技術を身につける．
④ 疾患に対する評価項目を列挙することができる．

【受講して得られる力】

考え抜く力
チームで働く力
情報活用能力
問題解決力
論理的思考力

【履修上の注意】実習室を使用する際は実習着を着用する．毎回，確認して準備すること．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	上肢機能検査② 内柴	各種上肢機能テストを理解し、実施方法を説明できる。(Key word:STEF，バーデューペグボード)	ペア・グループ
1	協調性検査 内柴	協調性異常の発生機序について理解し、機能評価の方法について説明できる。(Key word:協調性障害，運動検査)	ペア・グループ
2	姿勢反射検査 内柴	姿勢の捉え方，姿勢維持の機序を理解し，バランス評価の方法について説明できる．(Key word:緊張性姿勢，立ち直り反応，平衡反応)	ペア・グループ
3	摂食，嚥下の評価・検査① 内柴	摂食，嚥下機能，各々に障害をきたす要因を理解し，各検査方法について説明できる．(Key word:嚥下の過程，機能と障害像)	ペア・グループ
4	摂食，嚥下の評価・検査② 内柴	摂食，嚥下機能，各々に障害をきたす要因を理解し，各検査方法について説明できる．(Key word:摂食・嚥下評価，検査)	ペア・グループ
5	片麻痺機能検査① 内柴	各種片麻痺機能テストを理解し，実施方法を説明できる．(Key word:BRS，上田式，WMFT)	ペア・グループ
6	片麻痺機能検査② 内柴	各種片麻痺機能テストを理解し，実施方法を説明できる．(Key word:FMA，SIAS，MAL，MFT)	ペア・グループ
7	ADLの評価① 内柴	人の生活，活動の捉え方を理解し，活動評価の手段について説明できる．(Key word:B．I．，FIM，認知症自立度，FAI)	ペア・グループ
8	ADLの評価② 内柴	人の生活，活動の捉え方を理解し，活動評価の手段について説明できる．(Key word:AMPS)	ペア・グループ
9	高次脳機能障害① 内柴	高次脳機能の障害像を理解し，症状に合わせた評価法の選択を説明できる．(Key word:TMT，RBMT)	ペア・グループ
10	高次脳機能障害② 内柴	高次脳機能の障害像を理解し，症状に合わせた評価法の選択を説明できる．(Key word:BIT，WCST，FAB，Kohs)	ペア・グループ
12	QOL，興味，役割，痛みの評価① 内柴	QOL，興味，役割，痛みの評価方法を理解し，適切な手順や方法で実施することができる．	ペア・グループ
13	事例学習① 内柴	グループワーク．疾患の特徴を理解し，必要評価項目を列挙することができる．	ペア・グループ
14	実技試験① 内柴	被験者情報に適した測定が実施できる．	個人
15	実技試験② 内柴	被験者情報に適した測定が実施できる．	個人
期末試験	後期試験	評価方法：筆記試験 70%，実技試験 30%	

【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)，新・徒手筋力検査法　原著第10版(協同医書出版)， ベッドサイドの神経の診かた 第17版(南山堂)
【参考書】	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　画像評価(医学書院) 逐次，講義の中で紹介する．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】次回講義の内容について，評価学の教科書に目を通しておくこと．

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
日常生活技術論(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子 病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

ADL・IADL動作について作業分析学的な観点から動作の構成を運動・認知面から理解できるようになる. 疾病・障害によるADL・IADLの特徴を理解し特徴に応じた指導内容の基礎知識を理解できる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①日常生活活動の概念と範囲を理解し説明することができる.	知識・理解
②日常生活活動を定量的に評価することができる.	情報活用能力
③日常生活活動を構成する要素を理解し, 運動学・解剖学的視点を活用して分析できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④疾病や障害によって起きる身体的・精神的特徴に応じた日常生活指導の原則を理解できる.	コミュンケーションスキル
⑤活動や参加を促進する手段的日常生活動作(IADL)を構成する要素を理解し説明できる.	

【履修上の注意】グループワークや演習が多くなりますので動きやすい服装で参加してください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	講義オリエンテーション	日常生活活動(ADL)および手段的日常生活動作(IADL)の概念と範囲を理解し説明することができる.	グループ
2	日常生活活動(ADL)の構成①	日常生活活動(ADL)について作業分析・動作分析・運動分析を行う方法が理解できる.	グループ
3	日常生活活動(ADL)の構成②	日常生活活動(ADL)について作業分析・動作分析・運動分析を行う方法が実践できる.	グループ
4	起居・移動動作の構成要素	寝返りおよび起き上がりの構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
5	移乗動作の構成要素	移乗動作の構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
6	食事動作の構成要素	食事動作の構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
7	トイレ動作の構成要素①	トイレ(排泄)動作の構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
8	トイレ動作の構成要素②	トイレ(排泄)動作の構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
9	更衣動作の構成要素	更衣動作の構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
10	整容動作の構成要素	整容動作の構成を理解できる. 動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる.	グループ
11	ADL各動作の実技の確認	起居移動、移乗、食事動作、トイレ動作、更衣動作、整容動作について振り返りと実技についての習熟度を確認する.	グループ
12	日常生活活動(ADL)の定量的評価①	日常生活活動(ADL)について定量的に評価できる評価法を理解できる. (FIM・BIなど)	グループ
13	日常生活活動(ADL)の定量的評価②	機能的自立度評価表(Functional Independence Measure:FIM)の評定方法を理解し実践できる。	グループ
14	日常生活活動(ADL)の定量的評価③	機能的自立度評価表(Functional Independence Measure:FIM)の評定方法を理解し実践できる。	グループ
15	日常生活活動(ADL)の定量的評価④	バーセルインデックス(Barthel Index:BI)の評定方法を理解し実践できる.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度 20%	実技試験 30%
			筆記試験 50%	

【教科書】	最新作業療法学講座 日常生活活動(ADL)
【参考書】	講義の際に紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	課題は必ず期限内に提出してください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
日常生活技術論(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子 病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

ADL・IADL動作について作業分析学的な観点から動作の構成を運動・認知面から理解できるようになる. 疾病・障害によるADL・IADLの特徴を理解し特徴に応じた指導内容の基礎知識を理解できる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①日常生活活動の概念と範囲を理解し説明することができる.	知識・理解
②日常生活活動を定量的に評価することができる.	情報活用能力
③日常生活活動を構成する要素を理解し, 運動学・解剖学的視点を活用して分析できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④疾病や障害によって起きる身体的・精神的特徴に応じた日常生活指導の原則を理解できる.	コミュンケーションスキル
⑤活動や参加を促進する手段的日常生活動作(IADL)を構成する要素を理解し説明できる.	

【履修上の注意】グループワークや演習が多くなりますので動きやすい服装で参加してください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	脳血管障害のADL①	脳血管障害を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
2	脳血管障害のADL②	脳血管障害を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
3	パーキンソン病のADL	パーキンソン病を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
4	脊髄損傷のADL①	脊髄損傷を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
5	脊髄損傷のADL②	脊髄損傷を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
6	呼吸器疾患のADL	呼吸器疾患を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
7	循環器疾患のADL	循環器疾患を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
8	慢性関節リウマチのADL	慢性関節リウマチ(RA)を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
9	人工股関節置換術後のADL	人工股関節置換術後の対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
10	神経・筋疾患のADL	神経・筋疾患を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
11	精神障害のADL	精神障害を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し, 指導方法の原則を理解することができる.	グループ
12	疾患毎のADL実技	各疾患のADLの特徴について、知識と習熟度について確認する.	グループ
13	生活行為向上マネジメント(MTDLP)①	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の構成要素・使用方法について症例を通じて理解できる.	グループ
14	生活行為向上マネジメント(MTDLP)②	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の構成要素・使用方法について症例を通じて理解できる.	グループ
15	自助具と生活支援機器	疾患・障害を持つ対象者に必要な自助具や生活支援機器を作成することができる.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度 20%	実技試験 30%
			筆記試験 50%	

【教科書】	最新作業療法学講座 日常生活活動(ADL)
【参考書】	講義の際に紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】課題は必ず期限内に提出してください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
レクリエーション（選択必修）	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法の幅広い対象領域・対象者に対してレクリエーションは有効な治療手段であることを理解し、計画・実践能力を身に付けることを目的とする。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①体操やレクリエーションの持つ治療的意義を理解する。	前に踏み出す力
②対象領域・対象者に適切な体操やレクリエーションを考案できる。	チームで働く力
③対象領域・対象者に適切な体操やレクリエーションを提供できる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④適切な振り返りと修正を行い、次の活動につなげることができる。	コミュンケーションスキル
⑤	統合的学習体験

【履修上の注意】グループ活動には積極的に参加すること。演習では対象者への接遇に配慮すること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	治療的レクリエーションとは	治療的レクリエーションの基本的な考え方を学び、「楽しみ」や「集団」について理解する。	グループ
2	レクリエーションの範囲と対象	対象者や集団の違い、その特徴に応じたレク立案から実践までの流れについて理解する。	グループ
3	レクリエーションの実践①	実際の活動に参加し、対象者の身体・精神機能を把握して、グループの計画に反映させる。	グループ
4	レクリエーションの実践②	実際の活動に参加し、対象者の身体・精神機能を把握して、グループの計画に反映させる。	グループ
5	レクリエーション計画の実際①	身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。	グループ
6	レクリエーション計画の実際②	身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。	グループ
7	レクリエーションの実践③	グループで企画したレクリエーションを実践する。	グループ
8	レクリエーションの実践④	グループで企画したレクリエーションを実践する。	グループ
9	レクリエーション計画の実際③	身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。	グループ
10	レクリエーション計画の実際④	身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。	グループ
11	レクリエーションの実践⑤	グループで企画したレクリエーションを実践する。	グループ
12	レクリエーションの実践⑥	グループで企画したレクリエーションを実践する。	グループ
13	レクリエーション計画の実際⑤	グループ編成を行い、身体機能以外の要素を目的とするレクリエーションを計画・立案する。	グループ
14	レクリエーションの実践⑦	グループで計画したレクリエーションを実践し、まとめを行う。	グループ
15	レクリエーションの実践⑧	グループで計画したレクリエーションを実践し、まとめを行う。	グループ

期末試験	実践活動を総合的に評価	評価方法	課題の達成度　100%	

【教科書】	特に定めない。
【参考書】	特に定めない。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】身体・精神機能の知識を整理して、計画に反映させること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
障害者スポーツ(選択必修)	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

障がい者スポーツは様々な種目があり、生涯スポーツから競技スポーツまで存在する。スポーツを通じたノーマライゼーションや社会参加について考え、リハビリテーション専門職として障がい者スポーツに貢献する意義を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①障がい者スポーツの知識とその必要性について説明できる	前に踏み出す力
②スポーツをリハビリテーションの観点から「治療的意味」について説明できる	チームで働く力
③スポーツをノーマライゼーションの観点から「社会参加の意味」について説明できる	知識・理解
④スポーツをQOLの観点から「楽しみとしての意味」について説明できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤障がい者スポーツにリハビリテーション専門職のが関わる価値について説明できる	統合的学習体験

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問するほか、講義内で紹介するyoutubeなどの動画から理解を深めること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	障がい者スポーツの意義と理念	障害者スポーツの意義、その効果について理解する	個人
2	障害者福祉施策と障がい者スポーツ	障害者福祉施策の体系と、障害者スポーツとの関連について学習する	個人
3	障がい者スポーツ大会の概要 障がい者スポーツ指導員制度	全国で開催される大会、およびパラリンピックなどについて知る。公認スポーツ指導者の制度と役割を理解する	個人
4	ボランティア論と安全管理	ボランティア精神について、意見交換をしながら理解を深める 求められる安全管理の項目と内容について理解する	個人
5	障害の理解とスポーツ　1	障がい者スポーツの種目と障害に応じた配慮について理解する	個人
6	障害の理解とスポーツ　2	障がい者スポーツの種目と障害に応じた配慮について理解する	個人
7	障がい者スポーツ計画　1	障がい者スポーツの計画について理解する	グループ
8	障がい者スポーツ計画　2	障がい者スポーツの計画について理解する	グループ
9	障がい者スポーツ体験　1	計画した障がい者スポーツを対象者に実施する	グループ
10	障がい者スポーツ体験　2	計画した障がい者スポーツを対象者に実施する	グループ
11	障がい者スポーツ支援体験　1	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする	グループ
12	障がい者スポーツ支援体験　2	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする	グループ
13	障がい者スポーツ支援体験　3	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする	グループ
14	ホースセラピー　1	ホースセラピーを体験し、身体的―心理的―社会的な効果を知り、多種多様な対象者への応用を理解する	グループ
15	ホースセラピー　2	ホースセラピーを体験し、身体的―心理的―社会的な効果を知り、多種多様な対象者への応用を理解する	グループ

期末試験	評価方法		
なし	課題の達成度	50%	
	実習評価	50%	

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	障がい者スポーツ指導員講習会の受講を推奨

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
見学実習(1/2)	作業療法学科教員	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

医療機関および施設における作業療法部門の役割を理解することができる。臨床現場における作業療法士の業務内容を理解することで作業療法士としてのアイデンティティを高める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療機関・施設の形態や職務内容、特徴を理解し説明できる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②医療機関・施設における作業療法部門の役割を理解し説明できる。	コミュンケーションスキル
③臨床現場における作業療法士の業務内容を理解し、説明することができる。	態度・志向性
④「作業療法士」としてのアイデンティティを高めることができる。	考え抜く力
⑤専門職としての「自己課題」に気づき、行動変容のための具体的な計画を立てることができる。	チームで働く力

【履修上の注意】専門職・社会人として重要な内容を学ぶため、主体的に取り組むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	実習ガイダンス①	実習の目的、スケジュール、事前準備について理解できる。実習生として学ぶべき課題を理解することができる。	個人
2	実習ガイダンス②	専門職としての態度および社会人としてのマナーを理解することができ、実践の準備性を高められる。	個人
3	実習ガイダンス③	実習生として「正統的周辺参加」することの意義が理解できる。実習生として果たすべき役割を列挙できる。	個人
4	実習ガイダンス④	実習施設についての概要について情報収集することができ、質問事項を列挙することができる。	個人
5	実習ガイダンス⑤	記録の必要性について理解できる。記録に必要な要素について理解でき、演習を通して実践の準備ができる。	個人
6	実習ガイダンス⑥	記録の必要性について理解できる。記録に必要な要素について理解でき、演習を通して実践の準備ができる。	個人
7	実習ガイダンス⑦	実習中に必要とされる「報連相」の内容および伝えるべきタイミングを理解し実践のための準備ができる。	個人
8	実習ガイダンス⑧	守秘義務・事故報告・感染予防について理解し、体験することで実践するための準備ができる。	個人
9	見学実習①	臨床教育者のオリエンテーションを受け、実習施設の特徴が理解できる。準備した質問をすることで理解を深める。	個人
10	見学実習②	作業療法士の業務を見学することで、業務遂行のために必要な要素を理解できる。疑問点を質問できる。	個人
11	見学実習③	対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。	個人
12	見学実習④	対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。	個人
13	見学実習⑤	対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。	個人
14	見学実習⑥	対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。	個人
15	見学実習⑦	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。	個人

期末試験	なし	評価方法	課題の達成度 50%
			発表会の結果 50%

【教科書】	作業療法臨床実習のチェックポイント(メジカルビュー社)
【参考書】	講義内で適宜紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	アルバイトやボランティアなどの社会的体験を積極的に経験すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
見学実習(2/2)		作業療法学科教員			薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

医療機関および施設における作業療法部門の役割を理解することができる。臨床現場における作業療法士の業務内容を理解することで作業療法士としてのアイデンティティを高める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療機関・施設の形態や職務内容、特徴を理解し説明できる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②医療機関・施設における作業療法部門の役割を理解し説明できる。	コミュンケーションスキル
③臨床現場における作業療法士の業務内容を理解し、説明することができる。	態度・志向性
④「作業療法士」としてのアイデンティティを高めることができる。	考え抜く力
⑤専門職としての「自己課題」に気づき、行動変容のための具体的な計画を立てることができる。	チームで働く力

【履修上の注意】専門職・社会人として重要な内容を学ぶため、主体的に取り組むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	見学実習⑧	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。	個人
2	見学実習⑨	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。	個人
3	見学実習⑩	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。	個人
4	見学実習⑪	実習施設内における作業療法部門の役割および実習施設のある地域における施設の役割を理解し説明できる。	個人
5	見学実習⑫	実習施設内における作業療法部門の役割および実習施設のある地域における施設の役割を理解し説明できる。	個人
6	見学実習のまとめ	見学実習を通して学んだこと、自己課題を明確にし行動変容のための具体的な計画を立案することができる。	個人
7	実習報告会①	実習施設の概要、地域における実習施設の役割・特徴を説明できる。体験した内容から学んだことを説明できる。	グループ
8	実習報告会①	実習施設の概要、地域における実習施設の役割・特徴を説明できる。体験した内容から学んだことを説明できる。	グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	なし	評価方法	課題の達成度 50% 発表会の結果 50%	

教科書】	作業療法臨床実習のチェックポイント(メジカルビュー社)
参考書】	講義内で適宜紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】アルバイトやボランティアなどの社会的体験を積極的に経験すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて